

海外短期留学報告書

群馬大学大学院 工学研究科 電気電子工学専攻 修士1年

氏名： 高 虹

私は2011年9月11日から23日の間、アメリカに短期留学しました。今回の留学の目的は二つあります。一つはアナログ集積回路分野を誇るUCLA (University of California Los Angeles) でアナログ回路についての勉強です。もう一つは国際学会 CICC(Custom Integrated Circuits Conference)への出席です。

まず、UCLA を見学しました。キャンパスの広さと整備の完璧さに驚きました。その後、Asad A. Abidi 教授の研究室を訪問し、共同研究の打ち合わせや内容に関する論文調査をしました。その間に、Asad A. Abidi 教授から色々な研究に関する話を伺う事ができました。特に私たちは回路を設計する時にシミュレーションの結果を過信する傾向があります。シミュレーションの結果より理論に関する分析や自分の考えることのほうがもっと重要だと教えられました。滞在最終日に Abidi 教授にジッタと位相ノイズに関する講義をしていただきました。難解な内容を分かりやすく説明して頂いて、とても勉強になりました。



また、UCLA では Prof Itoh、Prof Razavi, Prof. Chang など世界的に有名な先生と面会し話を伺うことができました。これからの電気自動車時代に、今後は電源技術が重要になるとの話が印象に残りました。



また、カリフォルニア州南部の有名なチップを作る企業と世界トップクラスのソフトウェア会社を訪問しました。従業員にインド系や中国系の人が多いと感じました。

9月18日から22日の5日間は、シリコンバレー（San Jose）で開催されたCICCに参加しました。CICCは集積回路分野ではとても権威のある学会です。世界中アナログ技術の最新動向を知ることができました。特に最近はアナログ技術を人体に応用する論文が注目されておりました。電源技術に関する発表では私が今やっている研究内容と近いものもありました。これはとても参考になりました。この事に触発され、自身の回路を改善し、このような立派な会議で発表できたらと思います。

今回の短期留学を通して専門分野の知識だけでなく、研究を進める方法や沢山の有益なインフォメーションを集める事ができました。とても勉強になりました。今回の経験で研究に対する意欲も数段高まりました。短期留学でアメリカの文化とアジア文化の違いを体験できました。将来に海外との交流する機会に役に立つ事と思います。